



©NEWTRAD/Photo by SHUNGIKU

市民 登場

No.766

笑顔輝くママプロダブルダッチプレイヤー

あい
AIさん (31歳・左)
ゆりな
Urynaさん (31歳・右)

◆ダブルダッチプロチーム「NEWTRAD (ニュートラッド)」のメンバー。共に2年前に出産、産休を経て競技復帰を果たし、令和6年7月に神奈川県川崎市で開催された世界大会で3位入賞。

親が笑顔で輝く姿を見せることも
愛の届け方の一つと信じています

音楽に合わせて操られた2本のロープの隙間を縫うようにアクロバットが決まったかと思えば、別のメンバーがロープを跳びながらダンスを披露する。回し手も目まぐるしく交代し、チームの7人がそれぞれ得意な技を決めていく。令和6年3月のダブルダッチの国内大会で107チームの中を勝ち進み、7月に行われた世界大会では3位に入賞した。「出産当時は2年後に世界に挑戦しているとは想像もしていなかったですね」

大学生の時にダブルダッチの世界に2人揃って飛び込み、卒業後はプロとして4人のチームで活動。イベント出演やスクール講師など精神的に取り組んだ。2年前の同時期に母となった2人は「産後の心身への影響は想像以上でした」と振り返る。体を大切にしたい気持ちなど、復帰へはそれぞれ葛藤も抱えたが「産休時にサポートで入ったメンバーがいつか同じステージに立ちたいと言ってくれたことが忘れられなくて」。少しずつ活動に参加するうちに「ママプレイヤーとして挑戦したい」「母親ではないもう一人の自分を表現できる場所にいたい」ときっかけは違ったがチームに戻ると同じ思いを抱いた。サポートメンバーも正式加入し、7人で前例のない挑戦をしようと産後1年で目指した世界大会出場は「応援し支えてくれる人たちがいたからこそ」と口を揃える。お互いの存在も大きく「1人だとつらいことも2人だと笑い合える」と個人練習から子どもへの食事の準備まで公私共に支え合ってきた。「子どもと離れる時間は不安もあるけれど、親が笑顔で輝く姿を見せることも愛の届け方の一つと信じています」と親自身が楽しむことや協力を求める大切さを共有するため、1年前から各地で親子向けエクササイズ「だっこダッチ」を主催。「いくつか枚方でも開催したいですね」とはにかむ。チームのスローガン「輝くってええやん」を、母としても全力で体現し続ける。

自慢の写真・イラストが表紙に!?

枚方の風景などをテーマにした写真・イラストを大募集。▶応募 メールまたは市ホームページの専用フォームに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・メールアドレス、作品の説明・題名を書いて作品データを添付し広報プロモーション課(☒kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。詳細は市ホームページ参照。

※応募作品は市公式フェイスブックやインスタグラムで公開します。



専用フォーム
はこちら



「蹉跎小学校のひらかルタ」

今月号のひらふとは蹉跎小学校3年生69人がふるさと学習の一環で作成したオリジナルかるたの大会。枚方の良さが詰まった「ひらかルタ」は休み時間などに全学年で楽しられています。

右のかるたは北村春菜さん(9歳)が作成。「枚方市は大人も子どもも楽しく遊べて、すてきな街です。」

